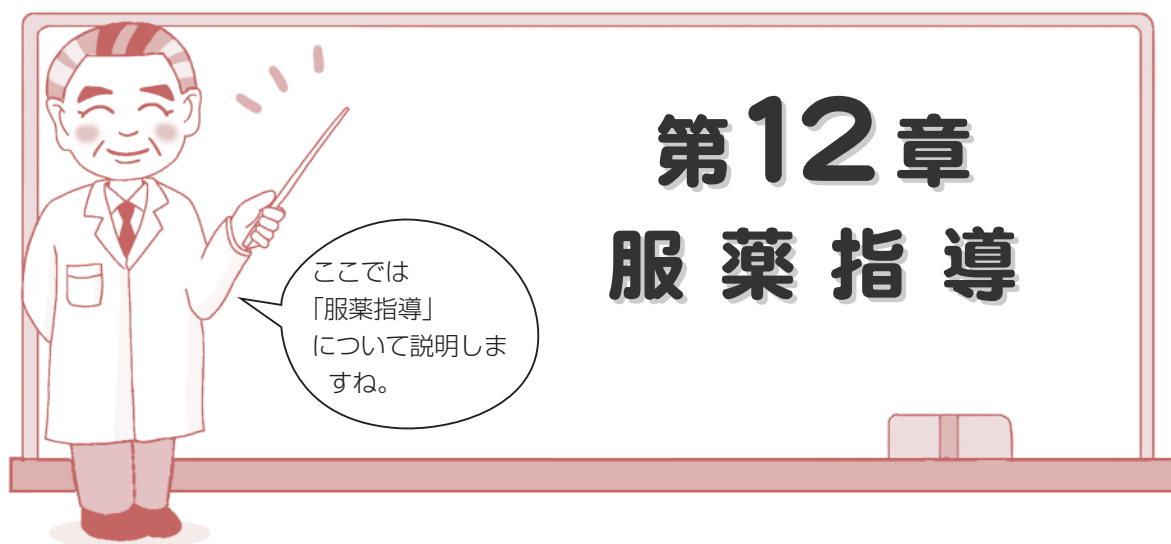




1. 高血圧の服薬指導一般

① コンプライアンス

高血圧の患者には自覚症状がない場合が多く、そのために放置されていることも少なくない。なかには降圧薬によってかえって気分が悪くなると訴える人もいて、自分で服薬を中止してしまうこともある。もちろん、血圧が下がり過ぎて気分が悪いということもあるし、血圧が目標値まで下がっていても急速な血圧低下で気分が悪いということもある。とくに高齢者ではこのようなことが多くみられる。別項で述べたように、高齢者では血圧の変動が大きく降圧薬にも過剰に反応することがある。薬剤師が患者の服薬中止の理由を聞き（このことは極めて重要である）、医師へ連絡する、あるいは患者に病院で診察を受けるように薦めるとともに、必要な場合以外の自己判断による服薬中止の危険性を説明する使命もある。

患者が自分の血圧を知り、降圧目標を知ることはコンプライアンスの上でも大切なことで、薬剤師はその手助けをすることも大切な仕事である。このためには、家庭用の血圧測定器の使用を薦めることもよい。とくに、白衣高血圧や早朝高血圧の診断にはこれが大切な根拠となることは先に述べた通りである。

高血圧の治療、とくに薬物治療は長期にわたるのでコンプライアンス、つまり患者がいかに忠実に服薬を守ってくれるかが重要な問題となっている。このコンプライアンスに影響する要因としては、

- | | |
|------------------|------------------------|
| 1) 患者の年齢 | 5) 血圧コントロールがうまく行かない |
| 2) 薬剤の種類（数、服用回数） | 6) 医療従事者（薬剤師も含めて）の説明不足 |
| 3) 副作用の頻度と程度 | 7) とくに男性では性機能の問題 |
| 4) 医療従事者との関係 | |

などがある。薬剤師はこれらのことを念頭に、丁寧な服薬指導を行わなければならない。

薬を飲まないのは患者が悪いという考えではなく、患者は何故薬を飲まないのかを訊くようにする。